

東レグループ（滋賀） 環境・社会活動報告書 2023



東レグループ（滋賀） 各社

東レ(株)	(株)東レリサーチセンター	東洋実業(株)
東レ・オペロンテックス(株)	東レテクノ(株)	(株)東レ知的財産センター
東レ建設(株)	(株)東レシステムセンター	東レコムズ滋賀(株)
東レエンジニアリング(株)	東レエンタープライズ(株)	

目 次

- ◆ ごあいさつ p 1
 - ・ 滋賀事業場の概要

- ◆ 環境保全への取り組み p 2～p 9
 - ・ ISO14001登録証
 - ・ 環境方針
 - ・ 水質汚濁防止
 - ・ 騒音防止
 - ・ 大気汚染防止と省エネルギーの推進
 - ・ 産業廃棄物の削減
 - ・ 化学物質の排出・移動量の管理
 - ・ 環境会計

- ◆ 環境に貢献する製品、および製品開発 . . . p 1 0

- ◆ 地域社会とのコミュニケーション . . . p 1 1～p 1 2

- ◆ 安全・防災への取り組み p 1 3～p 1 4

- ◆ 緑化推進 p 1 5

ごあいさつ

東レグループでは、「安全・防災・環境保全」「企業倫理・法令遵守」をはじめとしたCSRの推進を経営の最優先課題として位置づけ、グループ全体の共通認識として浸透させ、社会的責任を果たす企業として業務を推進しております。

当事業場は、1926年に滋賀県大津市に創立して以来、日本最大の面積を有する琵琶湖の恵みを受け、事業活動を行ってまいりました。

現在、原材料の調達から製品の研究・開発、製造、供給、廃棄に至るまでのすべてのプロセスにおいて、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの活用を通じ、廃棄物の削減、省エネルギーの推進、化学物質の排出量削減などの環境目標を掲げ、2050年カーボンニュートラルに向けて環境保全・環境改善について積極的に取り組んでおります。

本報告が、東レグループ滋賀事業場の環境・社会活動を皆さまにご理解いただく一助となれば幸いです。



滋賀事業場長
黒川 健

滋賀事業場の概要

■所在地 滋賀県大津市園山一丁目1番1号 ■沿革

■敷地面積 約84万m ² (約25.5万坪)	1926年	東洋レーヨン(株)設立
	1927年	滋賀工場完成、レーヨン糸初紡糸
■主な製品	1959年	ナイロン糸の生産開始*
<繊維>	1963年	ポリエステルフィルム“ルミラー”生産開始*
スエード調人工皮革“ウルトラスエード”	1966年	ポリオレフィン発泡体“トーレペフ”生産開始
ポリエステル長繊維不織布“アクスター”	1971年	人工皮革“エクセーヌ”生産開始 (現 登録商標名：ウルトラスエード)
<樹脂・ケミカル>	1975年	ポリエステル不織布“アクスター”生産開始
ポリオレフィン発泡体“トーレペフ”	1979年	電子材料製品の生産開始
<電子情報機材>	1983年	コンポジットの生産開始
実装材料	1986年	家庭用浄水器“トレビーノ”生産開始
エレクトロコーティング剤	1989年	高性能クリーナー“トレシー”生産開始*
感光性機能材料“レイブリッド”	1993年	“トレミキシン”生産開始*
セラミックス“トレセラム”	1994年	高性能エアフィルター“トレクリーン”生産開始*
有機EL発光材料	1996年	TFT用カラーフィルター“トプティカル” 生産開始*
<水処理・環境>		
家庭用浄水器“トレビーノ”		
<医薬・医療>	2001年	PDPペースト生産開始*
コンタクトレンズ“プレスオー”・ “プレリーナ”	2008年	ポジ型“フォトニース”生産開始
<複合材料>	2012年	有機EL材料新工場生産開始
燃料電池用電極基材	2013年	感光性機能材料“レイブリッド”生産開始
	2019年	未来創造研究センター開所

*印は、国内外の他工場へ移管もしくは収束

環境保全への取り組み

滋賀事業場では、1969年に安全衛生環境委員会を設け、構内関係・協力会社を含めた全従業員で『安全・衛生・防災・環境』の活動に取り組んでおります。

大津市と1976年に公害防止協定を締結し、条例の規制値よりも踏み込んだ自主管理基準値を設け、公害防止のための管理と対策を行ってきました。

また、全社プロジェクトである「レスポンシブル・ケア」「廃棄物削減計画」等に対しても、事業場として積極的に取り組んでいます。

1999年には構内関係会社を含めてISO14001の認証を取得し、環境目的・目標を掲げて活動しています。

さらに、2000年には公害防止協定に替わり環境保全協定を締結しました。今後も環境保全から環境改善へと活動を推進していきます。

■ 東レ株式会社 環境保全の推進体制

東レ 全社委員会
●安全・衛生・環境委員会
●地球環境委員会

国内関係会社（全体）
●安全・衛生・防災・環境会議
●安全・衛生・防災・環境責任者会議

東レ 滋賀事業場
●安全・衛生・防災・環境委員会
●環境管理委員会
●安全・衛生・防災・環境監査

■ 沿革

1969年 公害委員会（現：安全衛生環境委員会）設立	2002年 「環境管理実施事業所」（大津市）認定
1970年 環境技術課（現：環境保安課）設立	2003年 第2次環境3カ年計画策定、開始
1971年 公害防止技術相談室設立	2006年 発電ボイラーガス化
1972年 全員参加による「園山公園」作り	2007年 第3次環境3カ年計画策定、開始
1973年 環境管理規程、緑化基本方針制定	ガスタービンコージェネレーション設備導入
1974年 瀬田川監視室設置	2009年 (社)滋賀県環境保全協会会長表彰 (環境保全優良事業所)受賞 新排水処理設備設置
1975年 滋賀県緑化コンクールで「金賞」受賞	2011年 第4次環境中期計画策定、開始
1976年 公害防止協定締結	2012年 滋賀事業場ゼロエミッション達成
1979年 化学物質安全指針制定	2016年 第5次環境中期計画策定、開始
1981年 エネルギー技術室設置	2017年 (社)滋賀県環境保全協会会長表彰 (環境保全優良事業所)受賞
1990年 産業廃棄物削減プロジェクト開始	2018年 「東レグループ サステナビリティ・ビジョン」公表
1991年 地球環境委員会、地球環境研究室設置 工場緑化推進全国大会で「通産大臣賞」受賞	2023年 「サステナビリティ・ビジョン」 2030年度目標引き上げ 新規ガスタービンコージェネレーション 設備導入、貫流ボイラー導入 (2024年 稼働予定)
1993年 安全・防災・環境監査開始	
1995年 日本レスポンシブル・ケア協議会に参加	
1998年 国内関係会社安全・防災・環境監査開始	
1999年 廃棄物第2次削減計画策定、開始 ISO14001認証取得、同認証取得支援事業開始	
2000年 環境3カ年計画策定、開始 環境保全協定締結	

ISO14001登録書（適用範囲）

複写

ISO 14001 マネジメントシステム登録証

登録証番号：JQA-EM0527



登録事業者：
東レ株式会社
滋賀事業場
滋賀県大津市園山一丁目1番1号



当機構は、上記事業者の環境マネジメントシステムを審査した結果、付属書に記載する範囲において、下記規格の要求事項に適合していることを証します。

ISO 14001 :2015 / JIS Q 14001 :2015



登録日：1999年 9月 24日
登録更新日：2023年 9月 24日
有効期限：2026年 9月 23日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認することができます。

一般財団法人 日本品質保証機構
東京都千代田区錦州2-5-1
理事長 石井 隆 晶



本証には付属書がありますので、合わせてご覧ください。



23.05 07591206

複写

ISO 14001 付属書

登録証番号：JQA-EM0527

1 / 2

登録事業者：
東レ株式会社
滋賀事業場

登録活動範囲：

- 1) ポリエステルフィルム・ポリオレフィン発泡体・繊維補強複合体などプラスチック製品の研究、開発、製造
- 2) 不織布及び合成繊維の研究、開発、製造
- 3) LCD用カーフィルター、電子情報材料関連機材、オプティカル製品、アミノアレー製品、医療材料、地球環境関連材料の研究、開発、製造
- 4) 無機材料の開発、製造
- 5) 各種産業用設備・機械・装置・器具の開発、製造

関連事業所：

- ・東レ・オペロンテックス株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番2号
【ポリウレタン弾性繊維の研究、開発、製造】
- ・東レエンジニアリング株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
【各種産業用設備・装置・機械・器具の設計及び製造並びに滋賀事業場内の施工管理】
- ・東レ建設株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
【滋賀事業場内の建屋新築・増築・改修・保全工事管理】

登録日：1999年 9月 24日
登録更新日：2023年 9月 24日

有効期限：2026年 9月 23日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認することができます。

一般財団法人 日本品質保証機構

理事長 石井 隆 晶



23.05 07591206



登録証番号：JQA-EM0527

2 / 2

- ・株式会社 東レリサーチセンター
滋賀県大津市園山三丁目3番7号
【受託分析業務】
- ・東レテクノ株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
【環境分析、環境調査、材料分析】
- ・株式会社 東レシステムセンター
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
【コンピューターによる情報処理業務、ソフトウェアの開発】
- ・東レコムズ遊賀株式会社
滋賀県大津市園山一丁目1番1号
【滋賀事業場内の作業請負と各種事業】

登録日：1999年 9月 24日
登録更新日：2023年 9月 24日

有効期限：2026年 9月 23日

本登録証の有効性は、当機構までお問い合わせの上、確認することができます。

一般財団法人 日本品質保証機構

理事長 石井 隆 晶



23.05 07591206

環境方針

1. 環境関連の法規制および事業場が同意した地域、お客様、その他の要求事項を順守し、組織の状況、事業活動に関わる環境影響を常に考慮して、環境保全活動を推進します。
2. 汚染の予防を推進し、省エネルギーや廃棄物の削減に努め、生物多様性を考慮し、環境影響の最小化を積極的に進めます。また、環境に貢献できる製品やサービスの提供を目指します。
3. 環境目標を設定し、定期的に見直しを行い、環境パフォーマンスの継続的な改善を図ります。
4. 日本最大の面積を有する琵琶湖の恵みを受けている地域であることを認識し、排水の水質維持管理に努めるとともに、地域の環境保全活動に積極的に参画します。
5. この環境方針は、事業場で働く人々に周知徹底するとともに、一般に公開します。

制定：1999年2月1日 改訂：2017年4月1日
滋賀事業場長

環境目標		
1	廃棄物排出により生じる環境影響の最小化	○総廃棄物量の削減 ○単純処分廃棄物量の削減 ○ゼロエミッション達成（単純処分率1.0%以下）
2	省エネルギーの推進による地球温暖化防止	○エネルギー費用の削減 ○CO2排出削減
3	法順守の継続および環境異常発生の未然防止	○環境に関する異常件数の削減 ○是正・予防処理の確実な実行
4	有害物質の排出により生じる環境影響の最小化	○化学物質使用施設の適切な管理 ○マイクロナスピック漏出防止対策の実行 ○法・その他から要求される有害物質の削減
5	本来業務活動の推進による環境負荷活動低減	○有益な環境側面関連する取り組みについて各部門で設定

環境トピックス

当事業場では、1999年9月の環境事故を風化させないために、9月を「環境管理強調月間」として毎年活動しています。その一環として「環境改善事例発表会」を開催し、優れた改善事例を表彰するとともに、各部門から他部門へ水平展開出来る事例等について発表を行い、一人ひとりが環境保全意識の重要性を再認識し、環境事故ゼロへの誓いを新たにしています。

滋賀事業場「環境の日」

1999年9月13日、研究東地区にある製造工程において、**強酸性の洗浄水を近くの雨水溝に流してしまい**、その水が狐川に流入して魚が大量に死亡するという排水事故が発生しました。

この事故は、新聞やテレビなどマスコミでも報道され、東レの信用を著しく失墜させました。

排水事故を風化させないために・・・

- ・毎年9月13日「環境の日」
- ・毎年9月 「環境管理強調月間」

環境事故を風化させないための教育を実施（資料一部抜粋）

水質汚濁防止

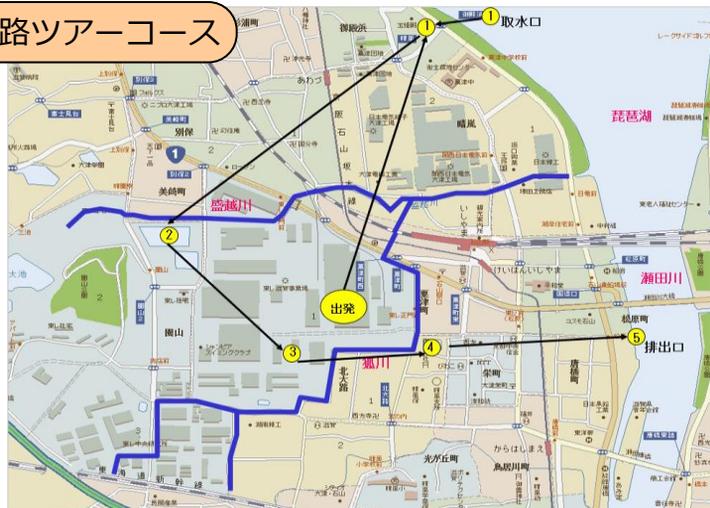


排水の監視
(魚の動きによる有害物質の検知)

当事業場では、琵琶湖の水を工業用水として購入し、事業活動で利用した後、必要な処理を行い、瀬田川に排出しています。

排水は、主な監視ポイントでpH、油、濁度、有害物質などを連続監視し、規制値より低い値で維持管理していますが、さらにプロセスの見直し、処置設備の効率的な運転に努めていきます。

水経路ツアーコース



また、工場で使用する水に対する従業員の意識を高めるため、琵琶湖からの供給、場内での処理、瀬田川への排出を自分の目で見て確かめる「水経路ツアー」を行っています。

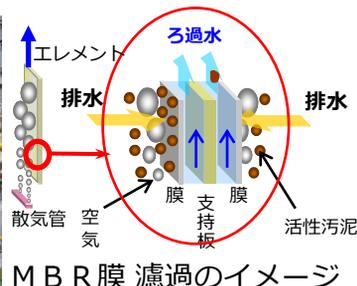


◆ 自社技術を使用した排水処理設備の設置運転 ◆

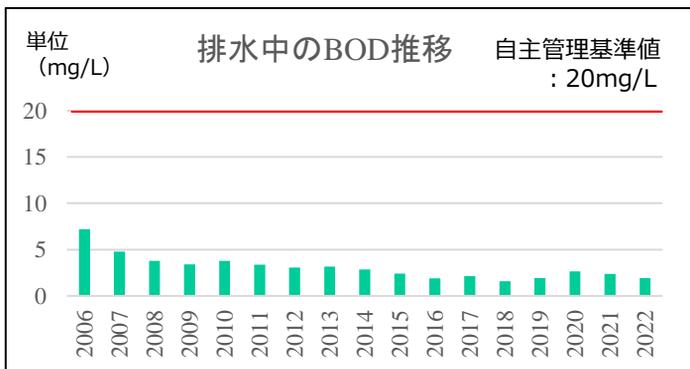
排水処理能力の不足による臭気発生を防止し、処理後の水質をより良くするため、2009年から**自社技術**を用いた設備を設置し排水を処理しています。この設備は微生物の動きを利用し、MBR法 (Membrane Bio-Reactor 膜分離活性汚泥法) を採用した排水浄化システムです。

MBRの膜は東レ製で、従来の活性汚泥法より省スペースで、より良好な処理水が得られます。

MBR排水処理設備



< 工場排出水の水質推移 >



■用語、解説

- ・BOD(生物化学的酸素要求量):最も一般的な水質指標.有機物などを、微生物が分解に必要とする酸素量。値が大きいほど、水質は悪化傾向である。
- ・T-N(全窒素):水中に含まれる窒素化合物の総量。富栄養化の目安項目。

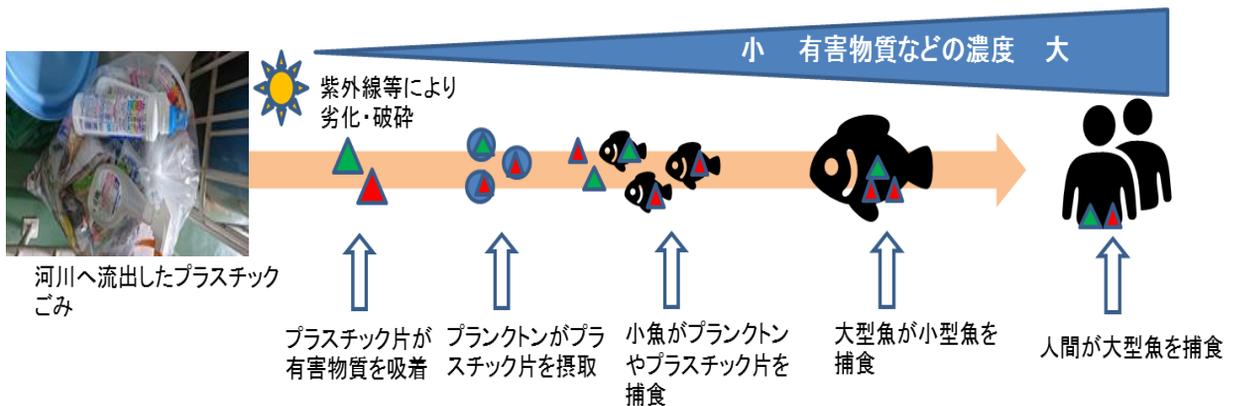
水質汚濁防止

◆マイクロプラスチック問題への取り組み◆

現在、マイクロプラスチックごみが、世界で注目され問題視されています。大型プラスチックごみは紫外線の影響等により劣化し、細かく破砕されることで生物が餌と誤認し、補食されます。このような微量な粒子は、生物の体内に取り込まれることで消化ができず、生物の体内にプラスチック製品や有害物質が蓄積される可能性があります。

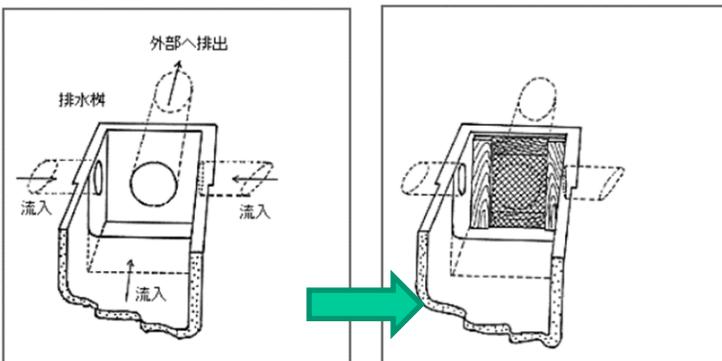
当事業場においてもマイクロプラスチック問題に、早期に対応していく必要があり、2020年度より環境活動方針に定め、プラスチック類の漏出防止対策を推進しております。

生態系へのダメージ（生物濃縮）※イメージ

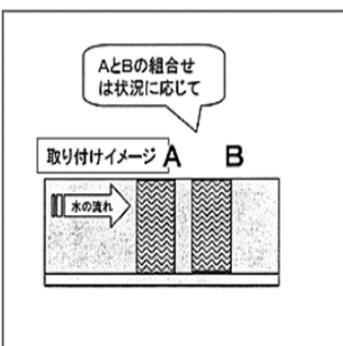


◆排水路へのプラスチック類漏出対策◆

例) フィルターの1重化



例) フィルターの2重化



プラスチック漏出懸念のある排水路へ漏出防止金網(目開き1~2mm)を設置し、漏洩防止の展開を開始しております。

◆監視測定◆

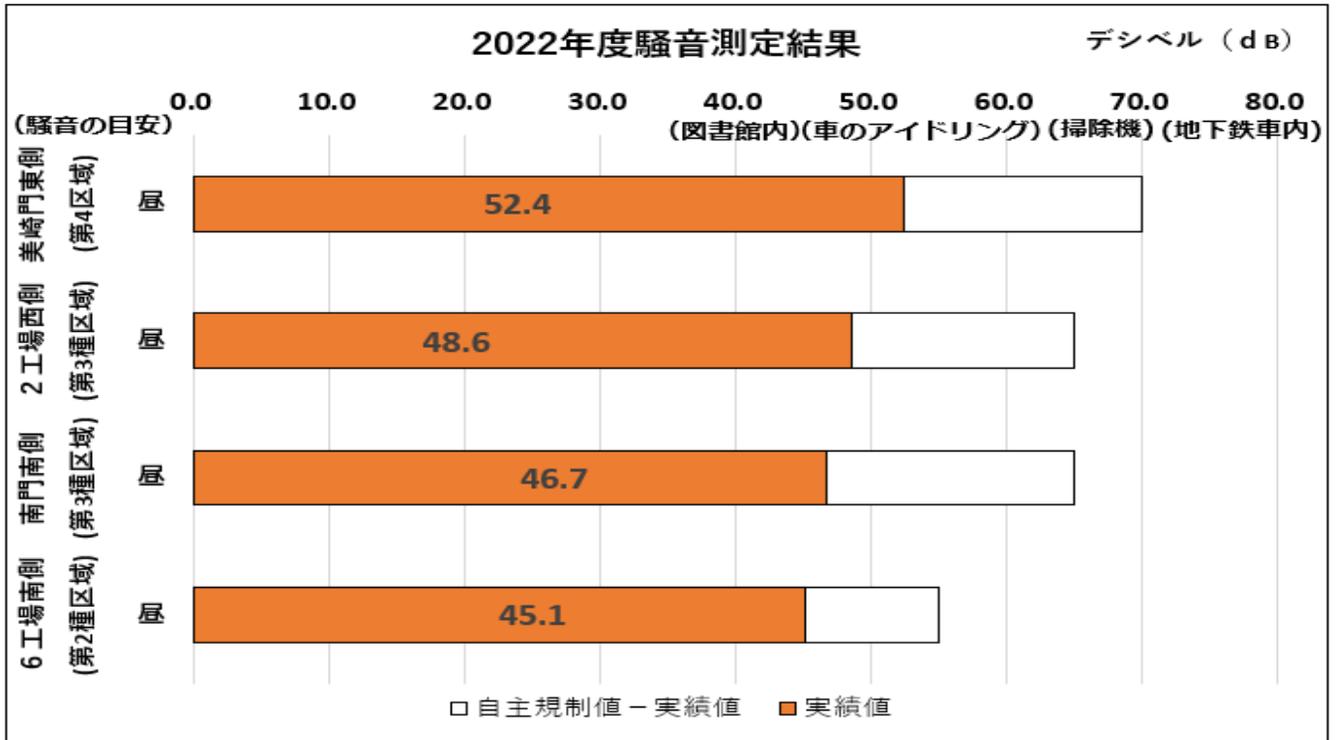


事業場総合排水排水管からサンプル水を吸い上げ、プラスチック類の混入量を定期的に調査を実施しております。

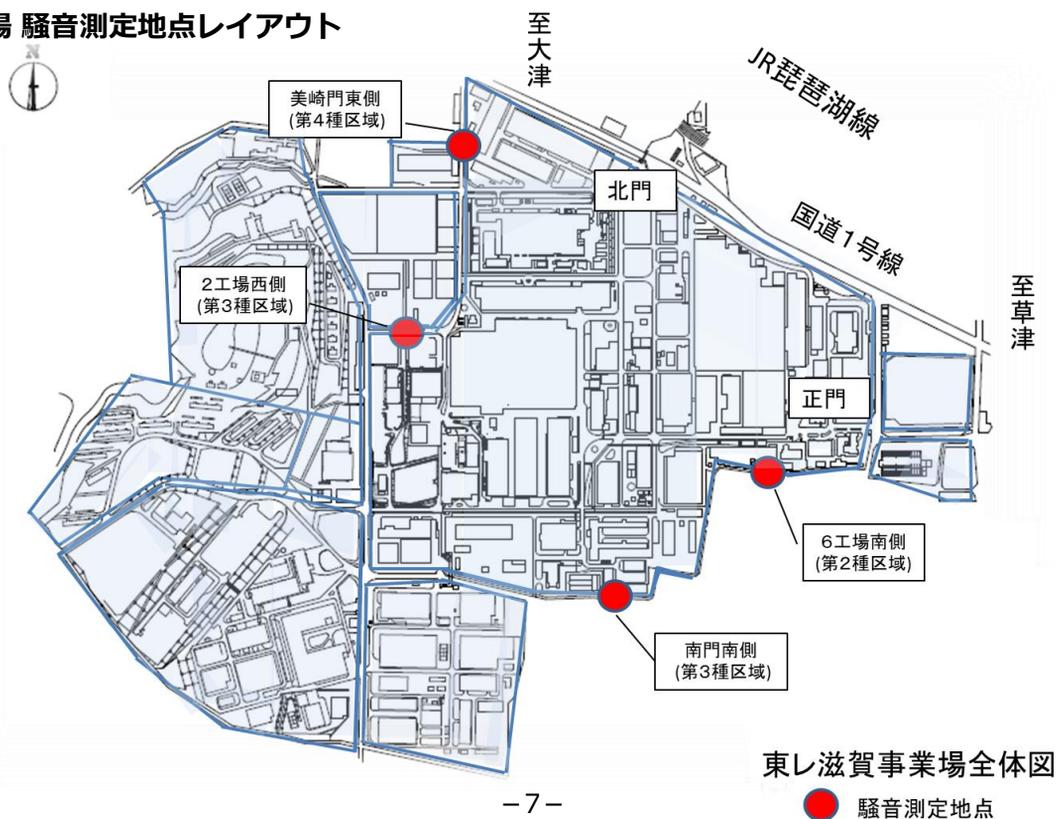
漏出対策引用元：日本プラスチック工業連盟

騒音防止

滋賀事業場は住宅街に隣接しており、騒音により地域住民の生活環境に影響を及ぼすことが無いよう、周辺4箇所で1回/年、騒音測定を実施し、大津市条例（大津市生活環境の保全と増進に関する条例）に基づいた自主規制値を下回るよう管理しています。今後も継続して測定を実施し、適切な対策を講じることで快適な生活環境の保全に努めていきます。



■ 滋賀事業場 騒音測定地点レイアウト



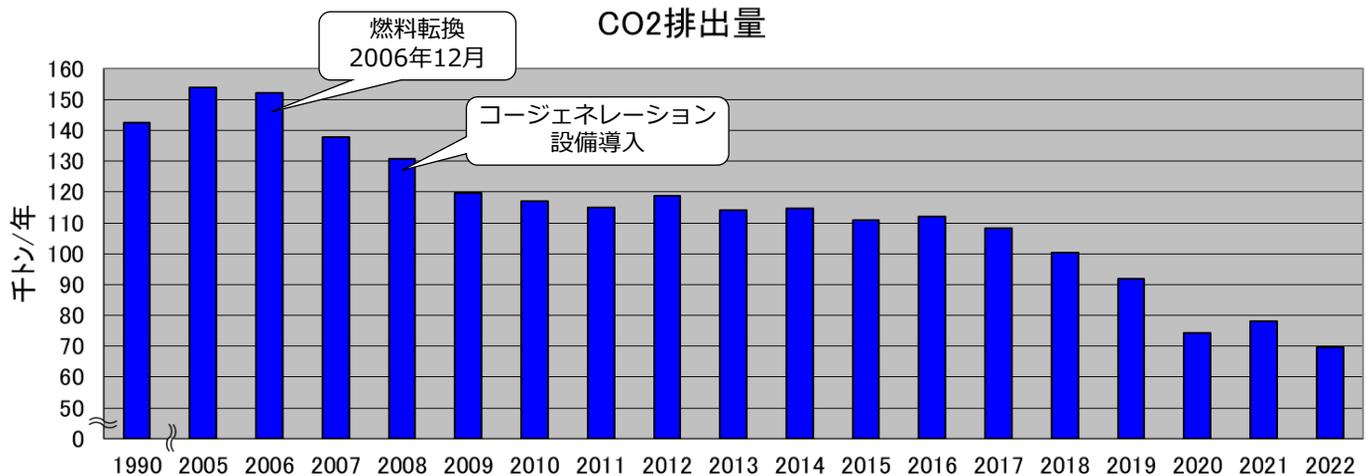
大気汚染防止と省エネルギーの推進

当事業場では、2008年に都市ガスを燃料とした高効率のコージェネレーション設備を導入し、CO2排出量削減と省エネルギーを推進してきました。2023年に更新時期を迎え、事業場の現状蒸気量に見合った新規のコージェネレーション設備(1台)と貫流ボイラー設備(6台)を設置することで、負荷に応じたきめ細やかな運転により、更なるCO2排出量の削減と省エネが可能となります。

2024年1月より稼働を開始する予定です。



建設中の新規ガスタービン
コージェネレーション設備

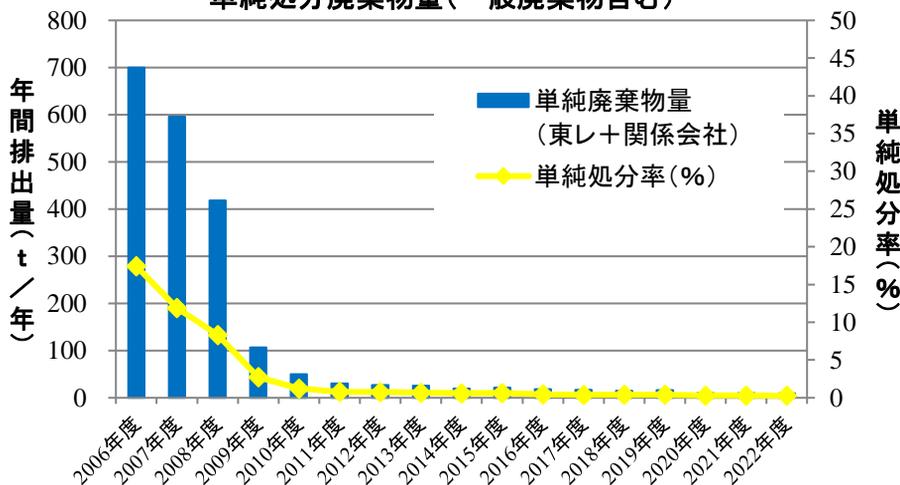


産業廃棄物の削減

東レグループでは、1990年度から「廃棄物削減プロジェクト」をスタートし、3~4年単位で削減目標を定め、廃棄物の有効利用や発生量の削減に努めてきました。

2011年度からは、ゼロエミッション(※)などの目標を掲げ、さらなる分別の強化、工程の改善、有効利用の検討などの活動を継続的に推進し、以降毎年、ゼロエミッションを継続して達成しています。※単純処分廃棄物量(埋立、単純焼却など)が総廃棄物発生量の1%以下

単純処分廃棄物量(一般廃棄物含む)



産業廃棄物はセメント原料や路盤材として使用されます。

廃棄物の処理

化学物質の排出・移動量の管理（PRTR）

当事業場（構内関係会社含む）で扱うPRTR法（※）の2022年度の対象物質は、昨年度対比1物質のみ削減し合計10物質でした。

化学物質の環境中への排出量については、削減方針を定め計画的な削減を進めています。

[単位：kg/年]



化学物質の排出削減対策
(溶剤回収装置)

物質名称	排出量			廃棄物 移動量
	大気	水域	自社埋 立・土 壌	
銀及びその水溶性化合物	0	0	0	26
N,N-ジメチルホルムアミド*	26	0	0	540
トルエン	400	0	0	7,000
アセトン及びその化合物	0	0	0	300
メチルピカス(4,1-フェニル)ニトロイソシアネート (メチルピカスフェニルイソシアネート)	0	0	0	3,000
クロロベンゼン	87	0	0	2,000
m-アミノフェノール	0	0	0	57
4,4'-ジアミノジフェニルエーテル	0	0	0	300
ジピコルベンゼン	0	0	0	0
N,N-ジメチルアセトアミド*	1	0	0	920
エチレンジアミン	0	0	0	9
N,N-ジメチルホルムアミド*	300	0	0	100
N,N-ジメチルアセトアミド*	15,000	0	0	90,000
2,6-ジターシャリブチル-4-クレゾール	0	0	0	0
メチルピカス(4,1-フェニル)ニトロイソシアネート	0	0	0	0

※PRTR：人の健康や生態系に有害な恐れがある化学物質が、環境中へどれくらい排出しているか、廃棄物として移動しているかを事業所ごとに届出し、その結果を公表する仕組みのことです。PRTRという言葉は、「Pollutant Release and Transfer Register」の略です。

環境会計

東レでは1999年度から、環境保全・省エネルギー・リサイクルなどに関する投資・コストを集計する環境会計を導入しています。当事業場における2022年度の実績は、環境投資額が約1,110万円、環境関連費用が約3億3千万円となりました。

項目	内容	投資額 (百万円)	費用 (百万円)
公害防止コスト	大気	0.0	11.3
	水質	0.0	113.0
	騒音・振動	0.0	7.2
	緑化	0.0	47.2
	悪臭・その他	9.5	1.4
地球環境保全コスト	省エネ、地球温暖化防止	1.6	-
資源循環コスト	廃棄物、再資源化、処分	0.0	116.2
管理活動コスト	間接労務費 ISO認証維持 環境広報・教育	-	28.8
合計		11.1	325.1

環境に貢献する製品、および製品開発

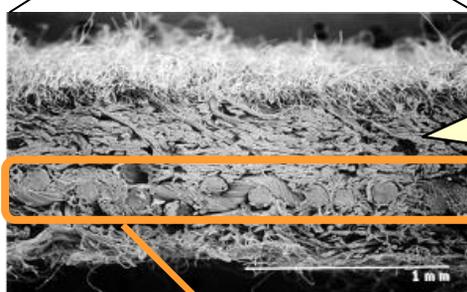
植物由来原料適用Ultrasuede®

不織布技術部では、スエード調人工皮革であるUltrasuede®において、新規に植物由来原料を適用したUltrasuede®「BXタイプ」を開発しました。本製品を構成する極細繊維、スクリム(補強織物)、ポリウレタンの一部に植物由来原料を使用することで、従来の石油由来製品と比較して、同等の耐久性や品位・風合いを有しながら、GHG排出量が約5%削減できます。環境配慮型製品として認められ、主に自動車内装材用途や家具向け等に採用頂いています。

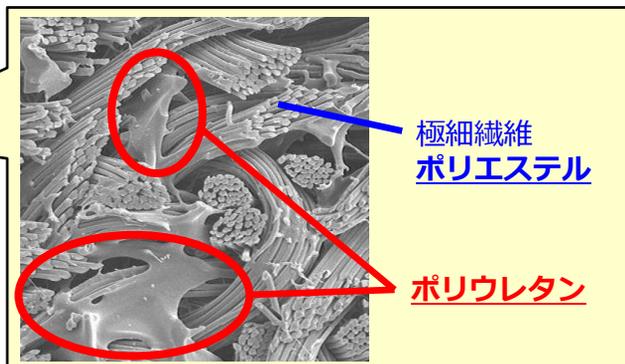


【Ultrasuede®の主な用途】

- ・自動車内装材
(シート、天井、ピラー、ドア、インパネ等)
- ・家具
- ・ファッション
- ・靴、鞆
- ・コンシューマーエレクトロニクス
- ・工業材料 等



スクリム (補強織物)
ポリエステル



極細繊維
ポリエステル

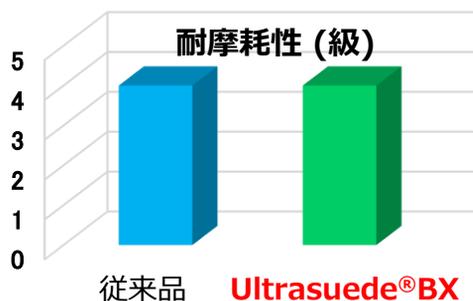
ポリウレタン

< GHG排出量 >

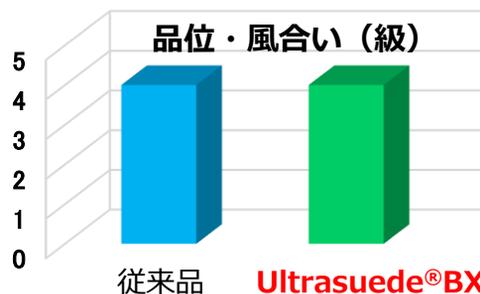
	石油由来製品		Ultrasuede®BX	
	原料由来	GHG排出量 (kgCO2)	原料由来	GHG排出量 (kgCO2)
極細繊維：ポリエステル	原油	1.87	廃糖蜜	1.59
スクリム：ポリエステル		1.25	廃糖蜜	1.24
ポリウレタン		3.90	トウモロコシ	3.85
合計	-	7.02		6.68

5%削減

< 製品特性 >



従来品 Ultrasuede®BX



従来品 Ultrasuede®BX

※マーチンデール摩耗：5(ピリングなし)～1(発生)

※官能評価：5(良)～1(劣)

地域社会とのコミュニケーション

環境美化、施設見学などを通じて、地域社会とのコミュニケーションの充実を図っています。



地域の清掃

「びわ湖を美しくする運動」の一環として毎月事業場周辺の河川や道路の清掃を行っています。



びわこクリーンキャンペーン

毎年、秋に瀬田川周辺の清掃活動を行っています。



施設見学

近隣小学校の施設見学受け入れを実施しています。

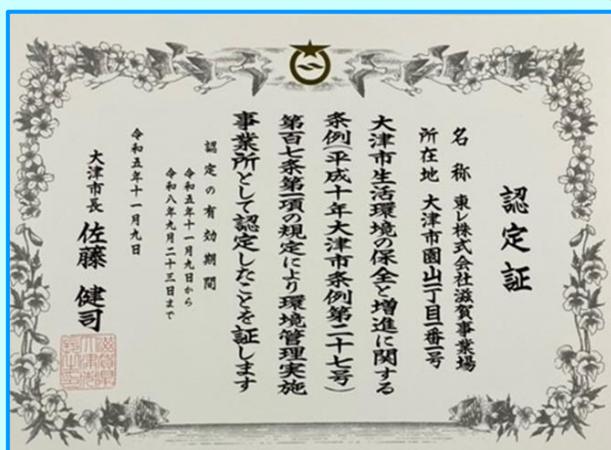


大津警察署の訓練に協力

大津警察署代替警備本部設置訓練に協力しています。

◆ 大津市環境管理実施事業所認定 ◆

大津市生活環境の保全と増進に関する条例第107条第1項の規定により、一定の基準に適合する事業者の申請に基づき、大津市長が認定するものです。



地域社会とのコミュニケーション

●女子バレー東レアローズ



バレーボール教室

女子アローズによるバレーボール教室を地域の子供達に行っています。

東レアローズ女子バレーボール部の活躍【歴史】

2000年 ユニチカバレー部を継承する形で創部
 2002年 第51回黒鷲旗優勝
 2004年 第53回黒鷲旗優勝
 2008年 平成19年度天皇杯・皇后杯優勝
 2007/08 Vリーグ優勝
 2009年 2008/09 Vリーグ優勝
 第58回黒鷲旗優勝

2010年 2009/10 Vリーグ優勝
 第59回黒鷲旗優勝
 2011年 平成23年度天皇杯・皇后杯優勝
 2012年 2011/12 Vリーグ優勝
 2019年 第68回黒鷲旗優勝
 2022年 第70回黒鷲旗優勝
 天皇杯・皇后杯準優勝
 2023年 2022/23 Vリーグ準優勝

●その他競技（ボート部、柔道部、剣道部）



その他社技として、活動しているボート部、柔道部、剣道部も優秀な成績を残しつつ、それぞれ地域貢献として、子供達への指導などを行っています。



安全・防災への取り組み

東レグループでは、安全・防災・環境保全を最優先課題としており、日常の安全活動に加え、毎年7月の「ゼロ災大会」の開催や、新入社員・職長・管理者など層別の教育、酸欠特別教育、疑似体験装置を用いた危険体感など、様々な安全活動を行い、従業員の安全意識の向上と安全な職場づくりを行っています。

■事業場ゼロ災大会

当事業場では、全国安全週間に合わせて毎年ゼロ災大会を開催し、各部署の安全活動を共有するとともに、安全スローガン(*)を事業場全体で徹底する契機としています。

*2023年 安全スローガン「安全最優先 ゼロ災追求 -ルール遵守で 災害防止-」



安全提案表彰



安全活動報告

■安全に対する教育

疑似体験教育として、各装置（回転体など）の危険性を模擬的に再現した疑似体験装置を用いて教育を実施することで、従業員の危険感受性向上に努めています。

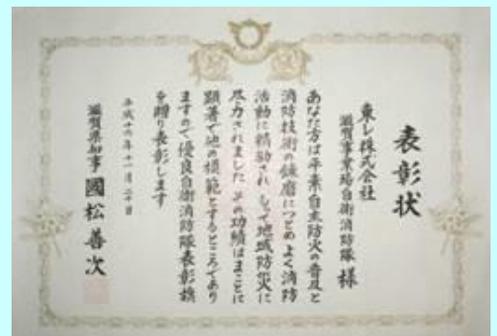


疑似体験教育風景

■安全・防災に関する主な表彰・記録

- ・1999年 優良危険物関係事業所（消防長官賞）
- ・1999年 第1種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2000年 第2種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2003年 第1種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2004年 第2種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2004年 優良自衛消防隊表彰（滋賀県）
- ・2009年 優良事業所（(社)滋賀県防火保安協会連合会長表彰）
- ・2010年 第1種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2011年 第2種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2012年 第3種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2015年 第1種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2016年 第2種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2017年 第3種無災害記録（厚生労働省 記録証）
- ・2018年 第4種無災害記録（厚生労働省 記録証）

優良自衛消防隊表彰（滋賀県）



安全・防災への取り組み

■ 防災に関する教育訓練

工場の中ではさまざまな原料、薬品、製品などを取り扱っています。私達は、万一の火災・爆発に備え、日常的な管理・点検を行うとともに、定期的に教育や訓練を行い、従業員の知識と技術の向上に努めています。



大規模地震を想定した総合防衛訓練

公設消防(大津市南消防署)の
指導のもと自衛消防隊の初期消火訓練



事業場内被害状況の集約訓練

防災教育：爆発実験



危険物などがどのような状態で着火するかなどを
実際に実験する教育

災害対策用小型造水機「トレスキュー」



当事業場では各種災害対策用アイテムを準備し、
災害への備えを実施しています。

「トレスキュー」は当社水処理膜を使用した
災害対策用の造水機です。

約1,600人分の飲料水を作ることが出来ます。

緑化推進

滋賀事業場では、東レグループ緑化基本方針に基づき生物多様性に配慮した樹林の保全や、周辺環境との調和に配慮し、緑化を推進しています。事業場西側に広がる園山公園緑地は従業員の憩いの場となっていることに加え、地域の方々にも開放し、親しまれています。また、工場立地法で求められる緑地面積率は20%を超えており、これを維持することで緑が多く自然豊かな事業場を目指しています。

■東レグループ緑化基本方針

- A. 生物多様性に配慮した自然生態に近い樹林方式で緑化を進め、地域の自然環境保全にも貢献します。
- B. 工場敷地境界部分を優先的に樹林方式で緑化し、「森に囲まれた工場」を目指します。
- C. 緑地面積率は各国・地域の規制や周辺環境との調和に配慮し、各工場毎に目標を設定して緑化を推進します。

■園山公園緑地（自然公園型緑地）の保全」

園山公園緑地（自然公園型緑地）は従業員の憩いの場となっていることに加え、地域の方々にも開放し親しまれている場所であり、今後も良好な状態に保ち、地域の自然環境保全に貢献します。





〈 内容に関するお問い合わせ先 〉

東レ株式会社 滋賀事業場

環境保安課

TEL:077-533-8044

FAX:077-533-8680

総務課

TEL:077-533-8001

FAX:077-534-5210

東レグループCSR

URL : <https://www.toray.co.jp/sustainability/stance/>